



世界へのプレゼントになろう

週報

2015~2016年度 RI 会長 K.R. “ラビ” ラビンドラン

RI 第 2730 地区ガバナー 野中 玄雄
鹿児島市内分区ガバナー補佐 内村文泰・日高文治

鹿児島東南ロータリークラブ

会長 飯野 和男 副会長 東 則秋 幹事 中馬敏之
(例会日、場所) 毎週火曜日、鹿児島市与次郎一丁目8-10
サンロイヤルホテル Tel 099-253-2020
(事務局) 〒890-0062 鹿児島市与次郎一丁目8-10
サンロイヤルホテル4F Tel 259-6855 Fax 259-1622
E-Mail info@tounanrc.jp ホームページ <http://www.tounanrc.jp/>

第 2277 回 No.44
平成 28 年 6 月 21 日 (火)
本日のプログラム 表彰

第 2276 回例会報告

会長挨拶

会長 飯野 和男

今年度は目標の会員増強が達成されず、会員減となったことを反省しております。2025 年には日本の経済、人口共、最低となる予想になっており、原点の親睦を中心に今できる事を着実にやって、会費収入減を改善し、会員増を図って行かなければならないと考えます。ただ、会員増と簡単に云えない状況であり、ロータリーの理解を示してくれる方々にアピールして行くほかないようです。

効果的なロータリークラブとなるための活動計画の指標を一度見直し、東年度が堅実な運営が出来るように応援したいと思っています。このままの会計状態では新しい事業活動はできませんので皆様方の色々な立場で奉仕プロジェクトへの参加と財政的支援を、又出席率の向上をお願い致します。

弱小クラブでありながら奉仕プロジェクトは他クラブにひけを取りません。続けられる限りやって行きたいものです。50 周年も間近であります。多くのクラブに“さすが”と云わせるものにしたいと考えていますが会員の皆様の応援を期待しています。次週は東南クラブへの、ロータリー財団への貢献をされた会員表彰を予定しています。全員の参加をお願いいたします。

熊本義援金お礼文書が届いてますので以下報告します。

熊本・大分地震 義援金の御礼

国際ロータリー第 2720 地区
ガバナー 野田 三郎
ガバナーエレクト 前田 眞実

去る 4 月 14 日に発生しました熊本・大分地震に対し、数多くの皆様にご心配いただき、お見舞いと激励のお言葉、並びに温かいご支援を賜りましたことに心より感謝申し上げます。

また、震災直後の 4 月 19 日に立ち上げた義援金口座「熊本地震総合支援室」へ多くの寄付金をお寄せいただき、誠にありがとうございました。この場をお借りして御礼申し上げます。

皆様から賜りました義援金は地域社会の今後の生活基盤や社会資源の復興活動費用として、公正公平に使用していきたいと考えています。それには被災地域の住民の型を中心に様々な意見を集約することが大切であります。地区のバスターガバナーや被災した地域のロータリアンが中心となり、より多くの方に耳を傾け、被災者の方たちに対して最もロータリーらしい支援を行いたいと思います。引き続き、暖かく見守って頂ければこの上ない力になりますので、今後ともよろしくようお願い申し上げます。

なお、お寄せいただきました義援金の使途につきましては、復興活動が終了後、皆様にご報告致します。

取り急ぎ、文章にて略儀ではございますが、重ねて御礼申

上げます。

ゲスト・ビジター紹介

鹿児島中央 RC 石崎 信一郎 様

会務報告

●東年度の活動要覧（アッセンブリー）の原稿作成依頼の文書を各委員長へ依頼してございます。原稿は 6 月 14 日本日までに事務局へ F A X もしくはメールにてお送りいただくか、例会時にご持参いただくことになっております。皆様どうぞよろしくお願い致します。

●6 月 28 日（火）の例会は、夜間例会を天文館ビークラスで行います。登録締切は 6 月 21 日（火）です。

●ガバナー月信 6 月号を配布しております。

出席報告

会員数	24 名	前々回出席者	17 名
出席免除	2 名	メイクアップ	5 名
出席会員	14 名	出席訂正率	100%
出席率	63.6%		

スマイル報告

☆山田忠茂君一誕生祝いありがとうございます。61 才井料農園の健康野菜で乗り切ります。

本日計 2,000 円 累計 434,200 円

米山奨学報告 野井倉委員長報告

☆井料長敏君一米山へ寄付致します。

☆別府雅之君一米山へ寄付致します。

→6 月 15 日米山財団へ振込致しました。

新・旧理事会報告 2016 年 6 月 14 日 12 時～

●出席者

15-16 年度理事 飯野、東、井料、別府、野井倉、上原、山田、迫田、中馬

16-17 年度理事 東、迫田、渡海谷、飯野、興津、井料、末吉、野井倉、上原、川崎

1 プログラムについて

7/5 会長・幹事 新年度挨拶

7/12 委員会活動計画

7/19 委員会活動計画

7/26 模擬面接の勉強会卓話（日赤関係）

理事会 12 時～

8/2 会員増強フォーラム

8/9 未定

8/16 定款休会

8/23 模擬面接会の勉強会卓話

8/30 未定

理事会 12 時～

2 台北グランドパークロータリークラブとの姉妹盟約調印について

2016 年 8 月 11 日頃、台湾を訪問し姉妹盟約の更新を計画中だが、若松会員の方で台湾の承諾の有無を現在確認している。

3 WF=国際財団活動資金（旧 W C S）について台湾を訪問するまでの間にたたき台を作っておいた方がいいのではないか。

東南と台北の外、熊本のクラブが加わり 3 年間継続的な活動ができる体制を作れないか（精神医療、N P O 法人など）。

東南では、3 年間の継続的な活動をチェックする。

東南と台北が準備する金額は 1 0 0 万円もしくは 2 0 0 万円。

4 東年度の予算（承認）

予算は、赤字となるため会員数 2 6 名で組んだが、現在の会員数は 2 3 名しかいない。

不足が生じるため、会費を 9 万円から 1 0 万円に上げることで理事会承認。

5 松元会員退会について

→承認

全体会議報告 年会費について（東副会長）

本日理事会でも承認いただきましたが、人数減により年会費の値上げをお願い致します。

年会費（前期）	15-16 年度	16-17 年度
	90,000 円	100,000 円
地区大会、役員会議費	15,000 円	15,000 円
50 周年積立	5,000 円	10,000 円
前期計	110,000 円	125,000 円
年会費（後期）	90,000 円	100,000 円
計	200,000 円	225,000 円

年会費を 20,000 円、周年積立を 5,000 円上げることに

なりました。

満場一致で決定致しました。皆様御協力よろしくお願ひ致します。

本日のプログラム 次年度委員会協議

東副会長 次年度委員会協議となっておりますが、地区協議会報告を發表いただいていない方もおりますのでお願ひしたいと思ひます。

奉仕プロジェクト部門 山田地区奉仕プロジェクト部門長



社会奉仕部門 職業奉仕委員会

末吉職業奉仕副委員長



難民危機と向き合う



『The Rotarian』誌 2016年5月号より

昨年、シリア、イラク、アフガニスタンからヨーロッパに

流れ込んだ難民は100万人以上。そのほとんどは危険なゴムボートでトルコからエーゲ海を渡ってギリシャに上陸し、そこから北上して(しばしば徒歩で)バルカン半島の険しい山を越え、1,000マイル以上離れたドイツへと向かいます。クルド系シリア人、ムハンマド・マラー・ハムザさん(26)も、2014年下旬にこのルートでヨーロッパに逃れた一人です。

苦難の末、オーストリアの美しい町にたどり着いたマラー・ハムザさんは、地元ロータリークラブの援助の下、新たな生活をスタートさせました。現在は自分と同じ境遇の難民の支援に当たっています。私がマラー・ハムザさんと出会ったのは、彼の住むオーストリア南東部シュタイアーマルク州の小さな町、フェルトパツハ。白ワインとパンプキンシードオイルの産地として有名なこの町は、人口わずか5,000人程度、中東の混乱とはかけ離れた静かな町です。学校と教会はこぎれいで、銀行と薬局はびかびか。騒音といえば自転車のベルくらい。この町に現在、約150人の難民が暮らしています。穏やかに話すマラー・ハムザさんは、オーストリア人の言葉でいえば「sympathisch(親しみやすい)」人柄で、母国シリアについて話すとき以外はいつも笑顔です。英文学の学位を取得してダマスカス大学を卒業したばかりの彼は、軍役免除が受けられなくなり、アサド政権の下、イスラム国(IS)を含む反政府軍との戦闘に駆り出される寸前でした。「イスラム国と戦って死ぬのは嫌でした」と話します。シリアからシュタイアーマルク州までの2カ月にわたる危険な旅は、中東からヨーロッパに逃れてくる難民の誰もが体験する壮絶なものでした。最初にシリア国境を越えてトルコに逃れ、そこからギリシャに渡るために密入国あつせん者が用意したのは、9フィートのゴムボートでした。海を渡れるような代物ではないこのちっぽけなボートに、彼のほか7人が乗り込みました。マラー・ハムザさんはその時を振り返って次のように語ります。「ある晩には激しい雨が降り、悲惨な状態でした」ギリシャに着くと、マラー・ハムザさんは警察に投降し、難民収容所への入所手続きを始めるために一時身柄を拘束されました。そこではじめて、ヨーロッパ人の多く(おそらくほとんど)が難民を歓迎していないことを知りました。「警察にはまるで動物扱いをされました。3日間、食事も水も与えられず、体に触るときは、まるで伝染病患者でもあるかのように、マスクと手袋をはめていました」ギリシャからは、西欧に向けたつらい旅が始まりました。アルバニアの森の中を2週間歩き続けたマラー・ハムザさんと仲間たちは、現地の国境警備隊員と親しくなり、首都ティラナのアパートにかくまってもらったこともありました。アルバニアからは夜間に国境を越え、モンテネグロ、セルビア、ハンガリーと、警官やホテル受付係にわいろを払いながら、最終的にウィーン(オーストリア)から南へ20マイルの地点にある難民キャンプにたどり着きました。ここでオーストリア政府に正式な難民申請を提出したマラー・ハムザさんは、フェルトパツハからそう遠くないエデルスバッ

ハという村の仮宿舎に入りました。仮宿舎に入った翌朝、パンを買いにエデルスバッハの村を歩いていたとき、マラー・ハムザさんは、69歳のパン職人フリッツ・フンメルさんと出会いました。この出会いは、マラー・ハムザさんにとって、また、フェルトバッハ・ロータリークラブにとっても、運命的なものとなりました。すぐに意気投合した二人。「私を息子のように扱ってくれた」とマラー・ハムザさんは言い、フンメルさんも、「なかなかの好青年」と親しみを込めて話します。「自分は典型的なタイプのロータリー会員ではない」と言うフンメルさん。フェルトバッハ・ロータリークラブの48人の会員の大半は医者などの専門職業人ですが、ロータリアン歴20年以上のフンメルさんは、父親が1953年に開業したパン屋で働き、現在、店の経営を息子に任せています。パンとペストリー好きであることが一目でわかる大柄なフンメルさんは、体格に劣らず大きい心の持ち主です。「40年前にシリアを旅行したとき、現地の人たちにとっても親切にしてもらった」と話すフンメルさん。「ロータリーとは助け合い。それを実践しただけです」難民危機が起こる以前、フェルトバッハのロータリークラブといえば、地元学生の奨学金を募るために毎年開いていたクリスマスコンサートで知られていました。しかし、会員であったフンメルさんがマラー・ハムザさんと親しくなったことで、オーストリアが近年抱えてきた難民問題に深く関心をもつようになりました。そして、町にやってきた難民が生活になじめるよう、募金や物資を集めて支援する活動を始めました。「衣服、食糧、パソコン、テレビ、中古自転車などを提供しました。また、クラブ会員である医者や弁護士も紹介しました」昨年の後期、日に6,000人とも言われる莫大な数の難民が欧州になだれ込み、オーストリアでは、欧州連合(EU)の難民受け入れ政策に対する大規模な反対運動が起こりました。意見調査では、難民の受け入れについて国民の意見が大きく二分していることが明らかになりました。調査会社GfK-Austriaが10月に行った調査では、国民の49%が、国境警備を厳しくして難民流入のペースを遅らせるか、完全に防ぐべきだと考えていることが分かりました。このような懸念や脅威の高まりを受け、フェルトバッハクラブの会員は、物資や支援の提供にとどまらず、一般市民に対する情報提供も始めました。会員であるマンフレッド・クラスニツァーさんは次のように話します。「ロータリー会員は、この町のオピニオンメーカーです。現実には何が起きているのかを市民が知れば、現状を違う目で見えるようになります」難民支援は「長い目で見ることが必要」とクラスニツァーさん。

「まず、ドイツ語を学んでもらう必要があります。次に、難民たちのスキルを調べ、それを生かした仕事ができるよう、人脈づくりを支援してあげることが大切です」フェルトバッハのロータリアンたちは、新たにやって来る難民たちを町が支援していることを示すために、近くにあるルネッサンス建築のホルンベルグ城の元狩猟小屋を、難民の仮住まいとして提供することにしました。この城は、伯爵の称号をもつ地元ロータリアン、アンドレアス・フォン・バルドーさん一家が所有する建物です。(バルドーさんの妻アンナさんは、第一次世界大戦勃発のきっかけとなったサラエボ事件で暗殺されたハプスブルグ家皇位継承者フランツ・フェルディナント大公のひ孫です)。50代のバルドーさんは、気品を漂わせながらも、飾り気がなく、愛想のよい人柄です。「"ヨーロッパ人"そして"国際人"として考えるよう教えられて育った」とバルドーさん。「この町が難民に優しい町であることを示したい」と話します。ホルンベルグ城の狩猟小屋は、2回の世界大戦後に数年間、避難民たちの仮住居となるなど、難民を迎え入れてきた長い歴史があります。フェルトバッハクラブとフンメルさんを通じてマラー・ハムザさんと知り合ったバルドーさんは、昨年11月に開放したロッジの管理人として彼を雇いました。ロータリーとの縁があったおかげで、マラー・ハムザさんは、新生活に欠かせない長期滞在許可証と運転免許証も取得できました。

★記帳メーキャップ受付			
6/28(火) 最終例会 於:ビーファーズ	7/5(火) 会長・幹事 新年度挨拶	7/12(火) 委員会 活動計画	
月/日	クラブ	例会場	プログラム(△変更)
6/22 (水)	鹿児島南	サンロイヤル	会員卓話
	鹿児島西	山形屋	クラブ協議会
	鹿児島南	ゆうづき	最終例会
6/23 (木)	鹿児島東	サンデイズイン	夜間例会
	鹿児島北	レゾナンス	★6/24(金)18:30～ 夜の例会へ変更
	鹿児島サウザン	鹿児島東急 REI	会長・幹事 任期を終えて
6/24 (金)	鹿児島	山形屋	最終例会
6/27 (月)	鹿児島中央	山形屋	★夜間例会
6/28 (火)	鹿児島城西	鹿児島東急 REI	★最終例会 19:00～